

令和6年度（2024）

学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園

専門学校 穴吹工科カレッジ

令和7年2月3日

学校法人穴吹学園  
専門学校 穴吹工科カレッジ  
学校関係者評価委員会

## 学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 専門学校 穴吹工科カレッジ学校関係者評価委員会は、令和5年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施いたしましたので、ご報告致します。

### 1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、専門学校 穴吹工科カレッジの自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹工科カレッジが行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

### 2. 学校関係者評価委員会

(委員)

野崎 敬三 野崎自動車株式会社 代表取締役社長  
植田 隼矢 香川県自動車整備振興会 香川県自動車技能教育センター教育課  
新家 勇司 東四国スバル株式会社 サービス課長 (穴吹工科カレッジ 卒業生)  
横手 章人 穴吹学園保護者会支部長  
香川 泰造 高松中央高等学校校長  
猪熊 伸彦 香川県立坂出工業高等学校校長

(学校教職員)

岩澤 正俊 専門学校 穴吹工科カレッジ校長  
大門 剛 専門学校 穴吹工科カレッジ副校長  
玉川 峰文 専門学校 穴吹工科カレッジ教務課長

### 3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和6年11月25日(月) 19:00~20:00

開催場所 学校法人穴吹学園 専門学校 穴吹工科カレッジ 402教室

### 4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)

当校の「教育理念」、「目的」及び「令和4年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種連合会様式にて実施。

各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不

十分である の4段階にて評価。

## 5. 年間スケジュールに基づく、取組等の説明

- ① 動員効果があるオープンキャンパスの実施
- ② 教員の学生対応力の向上、ICT活用
- ③ 国家試験対策の実施
- ④ 退学率の減少への取り組み

## 6. 意見交換、質疑応答

### ○自己評価結果の総評について

全体的な評価は「A」になっているが、入学者数に関して目標数は超えていない、コロナの影響も終息の兆しがあり留学生数が減少から増加へとなることを見通すことで、入学者数を増やすことが今後の課題である。退学率についても、目標を達成することができなかったことをふまえ、学生へのサポート体制を強化する。

○地域に根ざした教育について授業項目にない部分もあり、今後、評価項目について見直しを図り学校の特色になる授業項目を取り入れる予定である。

○進路指導や就職指導は良好で、就職先の企業様と連携を取りながら進めている。また、企業様より在学生に対して研修を行っていただくことでミスマッチを無くす取り組みも行っている。

離職率を抑えるため、卒業生の動向の把握を、今後、細かいところまで掴んでいく予定である。

○学生募集については、日本人希望者の減少に対して自動車整備士の重要性について理解を深めてもらう必要性などが課題である。希望者を増やすために、高校訪問や体験授業へ積極的に参加することで自動車業界の現状を知ってもらう取り組みが必要である。また、入学後の退学防止対策を継続的に実施することで退学率を抑えていきたい。

### 〈委員からの意見〉

#### ○入学生を増やす対策について。

高校へのPRについて、新しい取り組み内容を実施してみてもどうか。また、中学校への働き掛けもしてみてもどうか。

→オープンキャンパスへの参加を促すと共に、高校訪問を実施し自動車業界・自動車整備士の必要性を継続して説明しているが、結果としてあまりよくない。自動車整備士の仕事は重要な位置付けであることをもっと知ってもらうための施策が必要に思える。今後も継続して、学生および保護者、高校の先生方の認知度を高めていきたい。

#### ○ICT活用の取り組みについて

→反復学習を向上させるためにiPadを活用することで、Googleclassroom等を使い資料の配布、理解度の確認などを行うことで効率化を図っている。使用方法については今後も改良していく予定である。

以上